

INFORMATION

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-07-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00054903

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



INFORMATION

【期間：2019年】

International Symposium on Chronic Disease and Glycation Biology

日本学術振興会・頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム「慢性炎症と線維化をきたす生体ネットワークの解明とその制御の国際研究拠点形成」事業および金沢大学先魁プロジェクト2018「グリケーションを基軸とした老化研究の世界拠点の形成」事業推進のため、国際シンポジウムを開催する。米国ハーバード大学医学部ジョスリン糖尿病センターより Steven E Shoelson 教授、Jongsoon Lee 助教授、ニューヨーク大学医学部から Ann Marie Schmidt 教授、オーストラリアシドニー大学ジョージ研究所から Meg Jardine 准教授を金沢大学にお招きする。テーマは、「Chronic Disease and Glycation Biology」で、慢性炎症やグリケーションについての講演となる。学類学生、大学院生、研究者・教員スタッフ、そして広く興味のある方々が対象である。

日時：2019年1月15日（火）13：00-18：00

場所：金沢大学附属病院宝ホール

主催：血管分子生物学分野 山本靖彦 TEL 076-265-2181

第35回石川県臨床細胞学会学術集会

日時：平成31年1月27日（土）11:00～17:00

場所：金沢大学附属病院 宝ホール

このたび第35回石川県臨床細胞学会学術集会を開催することになりました。本学会は石川県臨床細胞学会に所属する医師および細胞検査士の技術向上のため、各病院から症例を持ち寄り、検討しながらより良い診断と治療のために開催するものです。北陸地区外の専門家による特別講演を行っており、石川県における細胞・病理診断および研究のさらなる発展に貢献するものと確信いたしております。

特別講演：齋尾征直 先生 群馬大学大学院保健学研究科 生体情報検査科学 教授

樋野興夫 先生 順天堂大学 医学部（病理・腫瘍学）/国際教養学部 教授（併任）

連絡先：原田 憲一 金沢大学医薬保健研究域医学系 人体病理学 TEL 076-265-2195 FAX 076-234-4229

革新ゲノム情報学セミナー

日時：平成31年2月1日（金）17:00～18:30

場所：医学図書館2階 十全記念スタジオ

演題：ゲノムから子宮内膜症を再考する

演者：吉原弘祐 先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科分子細胞医学遺伝子制御講座 助教・新潟大学研究推進機構 研究准教授）

内容：吉原先生は、子宮内膜症の発症メカニズム解明のため、正常子宮内膜から子宮内膜症へのゲノム異常の連続性を明らかにすべく、各組織に対してゲノム解析を実施し、癌関連遺伝子変異が両組織に存在することを証明されています。本セミナーではその最新の知見をご講演いただきます。

連絡先：革新ゲノム情報学 田嶋 敦 TEL：265-2715 E-mail：atajima@med.kanazawa-u.ac.jp

第29回金沢歯科口腔外科懇話会

金沢歯科口腔外科懇話会は、平成3年に金沢大学歯科口腔外科研修会としてスタートし、毎年回を重ね今年で29回になります。この会は金沢大学附属病院歯科口腔外科に患者さんを紹介して下さった先生と同窓の先生が集まり、歯科口腔外科の臨床と研究に関する研修を行う事を目的としています。本年は、金沢大学附属病院歯科口腔外科から20題の一般演題と特別講演を予定しています。本年の特別講演は北海道大学口腔顎顔面外科学教室の鄭漢忠教授にお願いしました。「口腔がん術後患者と高齢者の咀嚼・嚥下機能障害について」とても興味深いお話が聞けます。

日時：平成31年2月16日土曜日

場所：金沢東急ホテル

問い合わせ：金沢大学歯科口腔外科医局 TEL 076-265-2444

革新ゲノム情報学セミナー

日時：平成31年2月21日（木）17：30～19：00

場所：医学図書館2階 十全記念スタジオ

演題：「免疫応答時における臓器間対話－個体を対象としたシステム生物学的アプローチ－」

演者：角木 基彦 先生（Massachusetts General Hospital / Broad Institute / Harvard Medical School・Research Fellow）

内容：角木先生は、生体内の個々の臓器間の相互コミュニケーションやその介在分子について網羅的かつ不偏的に解析する新しい手法を開発し、免疫応答時の分子レベルおよび細胞レベルの新規臓器間対話を同定されています。本セミナーではその最新の知見をご講演いただきます。

連絡先：革新ゲノム情報学 田嶋 敦（内線：2715, e-mail：atajima@med.kanazawa-u.ac.jp）

Immunology Seminar

加部泰明 先生（慶応義塾大学医学部 医化学 専任講師）

血中エクソソームの絶対定量システムの構築と応用

開催日時：平成31年2月25日（月）14：00～15：00

場所：e-learning room（医学類D棟3階）

連絡先：免疫学（華山） TEL 076-265-2727

HOKURIKU RNA CLUB 2019・第7回富山RNA倶楽部 合同シンポジウム

日時：2019年3月5日（火）13：30～17：30

会場：富山大学五福キャンパス 理学部棟A424 講義室

<プログラム>

13：30～15：10 一般演題

15：10～17：25 招待講演

15：10～15：55 「線虫をモデル生物としたmRNAプロセッシング制御機構の解析」 黒柳 秀人 先生（東京医科歯科大学難治疾患研究所）

15：55～16：40 「長鎖ノンコーディングRNAによるストレス 応答制御」 秋光 信佳 先生（東京大学アイソトープ総合センター）

16：40～17：25 「小分子RNAによる転写抑制機構」 塩見 春彦 先生（慶應大学医学部）

お問い合わせ 甲斐田 大輔（富山大学）& 堀家 慎一（金沢大学） TEL：076-415-8848 E-mail：kaida@med.u-toyama.ac.jp

第22回日本病理学会中部支部スライドセミナー

日時：平成31年3月9日（土）10:00～17:00

場所：金沢大学附属病院 宝ホール

このたび第22回日本病理学会中部支部スライドセミナーを開催することになりました。本学会は日本病理学会中部支部に所属する病理医の技術向上のため、各病院から症例を持ち寄り、検討しながらより良い診断と治療のために開催するものです。中部地区外の専門家による特別講演を行っており、病理診断および研究のさらなる発展に貢献するものと確信いたしております。

特別講演：常山幸一 先生 徳島大学大学院医歯薬学研究所疾患病理学分野 教授

筒井朱美 先生 香川県立中央病院 肝臓内科 部長

伊倉義弘 先生 社会医療法人愛仁会高槻病院 病理診断科 主任部長

連絡先：原田 憲一 金沢大学医薬保健研究域医学系 人体病理学 TEL 076-265-2195 FAX 076-234-4229

第1回北陸分子病理研究会

世話人：金沢大学分医薬保健研究域医学系分子細胞病理学 大井章史

日時：平成31年3月17日（日）15：00～17：00

場所：金沢日航ホテル

講演者：井村穰二教授（富山大学病理診断学講座）

小林基弘教授（福井大学腫瘍病理学講座）

山田壮亮教授（金沢医科大学臨床病理学講座）

地理的にも、人的にも関係の深い北陸3県の病理医が互いに情報を交換し、将来、高度の診断技術の共有や、協力した学生新人教育を目指したいと考え企画しました。

連絡先：金沢大学医学系分子細胞病理学（第一病理）

TEL：265-2192 e-mail tokuda@med.kanazawa-u.ac.jp

生化学・腎臓内科学合同セミナー / 先魁2018セミナー

金沢大学先魁2018のネットワーク拡大、そして、日本学術振興会・国際的な活躍が期待できる研究者の育成事業「慢性炎症と線維化をきたす生体ネットワークの解明とその制御の国際的研究者育成」事業推進のため、東京大学大学院医学系研究科慢性腎臓病（CKD）病態生理学講座より稲城 玲子特任教授を金沢大学にお招きし、生化学・腎臓内科学合同セミナーを行う。講演タイトルは、「腎臓病と細胞・オルガネラ連関」で、腎臓細胞間の相互作用（細胞間クロストーク）による機能維持機構とその破綻による細胞内小器官（小胞体、ミトコンドリア、ゴルジ体といったオルガネラ）の機能・形態障害、さらにCKDの病態形成、そしてそれに基づくCKD治療戦略についての講演となる。学類学生、大学院生、研究者・教員スタッフ、そして広く興味のある方々が対象となる。

日時：2019年3月27日（水）17：00～18：00

場所：金沢大学医学類基礎第二講義室

主催：腎病態統御学・腎臓内科学・和田隆志、血管分子生物学分野・山本靖彦

脳神経医学セミナー

タイトル：脳神経医学セミナー「多細胞組織の三次元変形動態を1細胞から予測する汎用力学モデル」

講演者：奥田 覚（金沢大学ナノ生命科学研究所）

多細胞の力学動態は、発生・代謝・疾患などの様々な生命現象に見られ、遺伝子発現などの生化学動態と協働して、マクロな組織・器官の構造や機能を制御している。講演者は一般的な多細胞の三次元動態を1細胞レベルから解析する数理モデルを開発し、数理・生物学実験の融合アプローチにより、その力学原理の解明を目指してきた。本セミナーでは、開発した汎用三次元バーテックスモデル、および幹細胞から培養した眼杯組織の形態形成の力学制御機構についてお話し頂く。

場所：金沢大学 医学図書館2階十全記念スタジオ

日時：2019年4月16日（火）17時～18時

主催：金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経医学

連絡先：金沢大学 医学系 脳神経医学研究分野・河崎洋志

TEL 076-265-2365, e-mail kawasaki-sec@med.kanazawa-u.ac.jp

分子遺伝学セミナー

演者：近畿大学医学部免疫学教室・講師 高村 史記 先生

演題：ウイルス感染及び腫瘍におけるレジデントメモリー CD8T細胞分化機構

呼吸器粘膜に長期間維持されるインフルエンザウイルス特異的レジデントメモリー CD8T細胞（CD8 TRM）は、高度に保存されたウイルス内部タンパクを標的とすることであらゆる株に交差反応性を示し、且つ、局所にてウイルス感染細胞を直接傷害することで防御免疫の最前線を担う。従って、この細胞集団を呼吸器粘膜にいていかに効率よく誘導するかが今後のワクチン開発の最重要課題である。我々はマウス感染モデルを用いて、感染により生じた肺組織損傷部位に一時的に形成される修復巣が肺CD8 TRM分化・蓄積の場であることを世界で初めて突き止め、この部位をRepair-Associated Memory Depot：RAMDと命名した。本セミナーではRAMDにおけるCD8 TRM分化調節機構に関する我々の最新の知見と共に、近年注目を集めている腫瘍内CD8 TRM様細胞に関する我々の新たな取り組みを紹介する。

場所：医学図書館2階 十全記念スタジオ

日時：2019年4月19日（金）17：00～18：30

連絡先：金沢大学・医学系・分子遺伝学 倉知 慎（Tel 076-265-2176, E-mail：kurachi@med.kanazawa-u.ac.jp）

第30回日本医学会総会 2019中部 医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～

◆分科会応援早割 締切迫る!!(事前参加登録)◆(対象:医師・歯科医師・研究者):2018年10月31日(水)正午まで

会頭:齋藤 英彦(名古屋大学名誉教授)

顧問:中村 裕之(金沢大学医薬保健学域・研究域長)

テーマ:医学と医療の深化と広がり～健康長寿社会の実現をめざして～

会期・会場:学術集会2019年4月27日(土)～4月29日(月・祝) /名古屋国際会議場、名古屋学院大学白鳥学舎、ウインクあいち

学術展示2019年4月26日(金)～4月29日(月・祝) /名古屋国際会議場、ポートメッセなごや

市民展示2019年3月30日(土)～4月7日(日) /ポートメッセなごや

医学史展2019年3月2日(土)～4月28日(日) /名古屋大学博物館

公式WEB:<http://isoukai2019.jp/>

連絡先:学術準備室(株式会社コングレ) TEL:052-744-2037 FAX:052-744-2038 E-mail:isoukai2019@congre.co.jp

北陸実験動物研究会・日本実験動物技術者協会東海北陸支部の合同研究会

開催日時:4月20日(土)14:30

開催場所:第4講義室(G棟2階)

維持会員講演「生産動物微生物モニタリングにおける排気ガスの利用」

丸山 滋 先生(日本チャールス・リバー株式会社 モニタリングセンター)

北陸実験動物研究会講演「マウス・ラットにおける効率的ゲノム編集法の開発研究」

河原裕憲 先生(大阪大学大学院医学系研究科附属共同研ゲノム編集センター /医学部附属動物実験施設)

日本実験動物技術者協会・東海北陸支部講演「緊急時対応マニュアルの意義」

三好一郎 先生(東北大学大学院医学系研究科附属動物実験施設)

連絡先:学際科学実験センター 実験動物研究施設(神村) TEL:076-265-2461 E-mail:kamimura@kiea.m.kanazawa-u.ac.jp

The 34th Neuroscience Seminar & 第22回認プロFD講演会

「Taking the shortcut: Biomarkers for cerebral small vessel disease」

Department of Neurology, Massachusetts General Hospital,

Harvard Medical School, Boston, the United States

Professor Steven M. Greenberg, M.D., Ph.D.

日時:2019年5月20日(月)17:30～18:30

場所:金沢大学宝町キャンパス 医薬保健学域医学類教育棟地下大多目的室

このたび、Massachusetts総合病院・Harvard Medical School教授のSteven M. Greenberg先生をお招きし、下記のセミナーを開催します。Greenberg教授は同大学脳神経内科学の教授で、脳アミロイドアンギオパチー(CAA)に関するBoston criteriaを作成するなど、CAAに関する研究で世界をリードしている研究者です。大変興味深いお話をお聞きすることができますと思います。どうぞお気軽にご参加ください。

機能解剖学セミナー

日時:2019年5月20日(月)17:00～18:00

場所:金沢大学医学類教育棟1階 第二講義室

演題:「発育鶏胚を用いた医学研究の可能性」

佐藤 昇先生 新潟大学医歯学総合研究科肉眼解剖学分野教授

連絡先:金沢大学医薬保健研究域医学系機能解剖学分野 尾崎紀之

TEL:076-265-2156 FAX:076-234-4221

発育鶏胚は古くから発生学研究の良い実験モデル動物として使用されてきた。胚発生は安定しており、卵殻に穴を開けることで発生経過を観察し種々の操作を行うことも容易である。近年は遺伝子導入の技術も開発され、発生における分子メカニズムの解析にも用いられることが多い。演者である佐藤昇先生のグループは発育鶏胚への遺伝子導入について長年工夫を重ねることで、発生運動ニューロンへ外来遺伝子を導入する系を開発・改良されてこられた。発育鶏胚は発生現象を解明するのに適したモデルである一方で、遺伝子導入技術などが応用可能となることで他の医学・生命科学の研究にも応用できる可能性がある。佐藤先生のグループは神経変性疾患の一つであるポリグルタミン病モデルを発育鶏胚で構成できるか挑戦されており、セミナーでご紹介いただいた。

ウイルス感染症制御学特別セミナー

テーマ：HIV and Ageing: Prevalence of hypertension among patients aged 50 and older living with human immunodeficiency virus.

日時：2019年5月21日（火） 17:00 - 18:30

場所：医学類F棟1階 修士課程セミナー室

連絡先：ウイルス感染症制御学 TEL 076-265-2229 E-mail: virus@med.kanazawa-u.ac.jp

この度、ナイジェリアのInstitute of Human Virologyにお勤めのResearch Laboratories所属のChief Executive Officer (CEO)であるDr. Dakum Patric SundayとDirectorであるDr. Nicaise Ndembiをお呼びして” HIV and Ageing: Prevalence of hypertension among patients aged 50 and older living with human immunodeficiency virus.” のテーマでセミナーを行います。

脳神経医学セミナー

タイトル：脳神経医学セミナー「脊髄ニューロンを用いた神経回路形成研究のNext Stage」

講演者：白崎 竜一（大阪大学大学院生命科学研究所）

これまで脊髄ニューロンを用いて、神経回路形成の基本概念が次々と打ち立てられてきた。これまで解析が進められてきた回路形成早期の研究とは異なり、私たちは最近、マウス脊髄の交連ニューロン回路の後期形成過程を解析した結果、これまでの研究からは全く予想されてこなかった回路形成の新たな姿を見出しました。本セミナーでは、私たちが取り組んでいる回路形成研究の最近の成果を紹介し、この分野での未解明の課題や今後の展開を議論したい。

場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

日時：2019年5月23日 17:00～18:00

主催：金沢大学医薬保健研究域医学系 脳神経医学

連絡先：金沢大学 医学系 脳神経医学研究分野・河崎洋志 TEL 076-265-2365, e-mail kawasaki-sec@med.kanazawa-u.ac.jp

国際保健学特別セミナー

テーマ：“100 years after the Spanish Flu: are we ready for the next epidemic?”

テーマ：“The state of vaccine confidence: a global view”

日時：2019年6月7日（金） 16:30 - 18:00

場所：医学類G棟2階 第4講義室

連絡先：ウイルス感染症制御学 TEL 076-265-2229 E-mail: virus@med.kanazawa-u.ac.jp

この度、ロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長、元国連合同エイズ計画 (UNAIDS) 事務局長 Peter Piot先生およびロンドン大学衛生熱帯医学大学院人類学教授 Heidi Larson先生をお招きしセミナーを開催します。

機能解剖学セミナー

日時：令和元年6月10日（月） 17:00～18:00

場所：金沢大学医学類教育棟1階 第二講義室

演題：「軸索損傷における自律的・非自律的な応答と運命決定の分子メカニズム」

木山博資先生 名古屋大学・大学院医学系研究科・機能組織学教授

連絡先：金沢大学医薬保健研究域医学系機能解剖学分野 尾崎紀之

TEL：076-265-2156 FAX：076-234-4221

木山先生のグループは損傷神経の生存・再生あるいは変性のメカニズムを理解するため、末梢神経損傷モデルを用いて、各種のオミックス解析により数多くの関連分子を抽出し、これらの分子パーツがいかに時空間的に組み合わせられて再生や変性にいたるのか、その分子メカニズムの全貌を明らかにする研究を行ってこられた。その結果、再生には転写因子群による分子発現のオーガナイズ、オルガネラや分子の分解処理機構などの神経自律的な応答に加えて、周辺非神経細胞からの神経非自律的な応答が必要であり、これらがうまく噛み合っただけで再生への道が開けることを明らかにされた。本セミナーでは損傷神経の変性と再生の過程で起こっている現象や分子メカニズムの概要について紹介いただき、最近の話題として木山先生のグループが以前同定しDINEと命名したメタロプロテアーゼ分子の機能、さらにミクログリアの再生・変性における役割についてもご紹介いただいた。

幹細胞生物学セミナー

日時：2019年6月14日（金）17：30 - 18：30

場所：医学図書館 十全記念スタジオ

演者：小島伸彦 先生（横浜市立大学 理学部 再生生物学研究室 准教授）

演題：微細構造をもつ3次元的な臓器をつくる方法

要旨：我々の臓器は細胞が集まって形成されている。したがって、細胞を一つひとつ組み立てていけば臓器が再構築できるはずである。しかし、細胞の直径は20 μm 程度ととても小さく、指で直接つまむことはできない。細胞は生きているため、細胞周辺の酸素濃度や栄養素などにも気を配る必要がある。さらには、細胞を適当に組み立てるだけでは不十分であり、臓器に備わる微細構造を再現できるかどうか重要である。細胞をマテリアルとして臓器というプロダクトをつくりあげるには、多くの困難を乗り越える必要があり、究極のものづくりの一つであるといえよう。本セミナーでは細胞を使ったものづくりの方法論として、メチルセルロースの膨潤力を活用したユニークな微細構造化3次元スフェロイド作製技術について紹介する。具体的な応用例として（1）AMED「生体模倣システム」事業におけるヒトiPS細胞由来肝臓の高機能化、（2）1型糖尿病モデル膵島の作製、（3）精巣様組織の構築とこれを用いた生殖毒性の検証、に関する取り組みの最新データを示しながら、臓器づくりの可能性について語り合いたい。

連絡先：再生分子医学 赤木紀之 <tadayuki@staff.kanazawa-u.ac.jp>

第13回MRTプログラム・リトリート

MRTプログラムとはMedical Research Trainingの頭文字をとったプログラムのことで、明日の医療を開拓する人材（研究医）を育成することをミッションとしている。このプログラムは、医学類の正式科目と並行して、希望する学生が授業の空き時間や夕方以降、休暇期間を利用して、各研究室で行われている研究・ゼミナール・論文抄読会等に参加するものである。今回は第13回目のリトリートで今年度としては1回目となる。MRTプログラム参加学生・関連学生、教員スタッフ、興味のある方々に広く開放して日頃の成果や今後の抱負を語りあう会となる。

日時：2019年6月28日（金）18時15分開始

場所：金沢大学医学図書館2階 十全記念スタジオ

主催：MRTプログラム実行委員会、MRT担当教員

第26回 日本時間生物学会 学術大会

日時：2019年10月12日（土）9：00～19：00 / 2019年10月13日（日）8：30～18：00

場所：金沢市文化ホール 会議棟

テーマ：時間生物学の新潮流 Neo-chronobiology

開催概要：特別講演・服部正平（早稲田大学）

・Erik Herzog（Washington University in St. Luis）

シンポジウム・生物時計の発振と同調機構にみられる共通性と多様性

・細胞・組織・個体に表出されるリズムの自律性と非自律性の分界

・体内時計研究の産業応用や社会実装

・体内時計・睡眠とメンタルヘルス

・時間医学 from bench to population

・生物の多様な集団発振現象

ポスター発表データブリッツ、ポスター発表（～120演題）、奨励賞授賞式・受賞講演

大会HP：<http://neurophysiol.w3.kanazawa-u.ac.jp/26jsc>

連絡先：金沢大学・医学系・統合神経生理学（第26回日本時間生物学会学術大会 運営事務局）

TEL：076-265-2173, E-mail：26jsc@med.kanazawa-u.ac.jp